

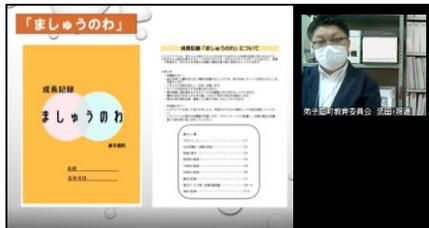
特別支援連携協議会だより

特別支援連携協議会事務局（釧路教育局）

令和5年2月16日（木）に、釧路教育局会議室を配信会場として、令和4年度第2回釧路管内特別支援連携協議会を開催しました。本協議会は、幼稚園から大学までの各学校等の代表者や、医療、保健、福祉、労働、保護者等の関係者で構成されており、管内の特別支援教育の充実に向けた協議等を行っています。本協議会で話し合われた内容等について紹介します。

事例発表「個別の教育支援計画の活用の好事例について」

令和4年度発達障がい支援成果普及事業連携推進地域 弟子屈町



弟子屈町教育委員会
武田 進一 指導室長

- 一人一人の教育的ニーズを踏まえた支援の充実に向けて、医療や福祉、教育機関等との情報交換や円滑な連携を図ることを目的とした、健康こども課健康推進係作成の「まじゅうのわ」の活用が特徴的な取組である。
- 「まじゅうのわ」に記録する内容は、幼児児童生徒の得意なことや苦手なこと、適切な支援の在り方等について記載することとしている。
- 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の自立と社会参加を見据えて、「まじゅうのわ」や個別の教育支援計画等を活用し、各関係機関の連携を図りながら就労段階まで情報を引き継ぎたいと考えている。

協議「今年度の取組の改善及び次年度の取組の検討について」

各委員からの報告及び意見

- 個別の教育支援計画の作成に当たっては、幼児児童生徒の学習状況や生活状況、適切な支援等の正確な情報を記入し、更新していくことができるよう、幼児児童生徒のできないことだけではなく、できることやよさなどに目を向けて、どのような支援等が必要なのかを十分に検討して記入する必要がある。
- 特別支援学級や特別支援学校において、特別支援教育の経験の浅い教員が多く見られることから、今後、教職員の特別支援教育への理解を深めることを目的とした研修の場を設ける必要がある。
- 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒が生活や学習上の困り感を抱えていると同時に、その保護者が子育てへの困り感や不安を抱えている場合があることから、困り感や不安を抱えた保護者に対し、各関係機関が連携し、地域で保護者を支える必要がある。
- 労働機関では、中学校、高等学校における障がいのある生徒への就職支援等を実施していることから、就労に向けた支援を円滑に行うため、各学校から各関係機関等への連絡を密にしていきたい。



【まとめ・総括】北海道白糠養護学校 仲條 正輝 校長

- 各市町村においては、個別の教育支援計画を活用した切れ目ない一貫した指導や支援が行われるよう、それぞれの立場で、関係機関と連携しながら取組を進めるとともに、各種研修等を通して、教職員を含む各関係機関の職員の特別支援教育への理解を深めたり、教職員の特別支援教育の専門性を高めたりする必要がある。
- 個別の教育支援計画の作成・活用にあたって、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒をもつ保護者が子育てへの困り感や不安を抱えている場合があることから、保護者の積極的な参画を得るだけでなく、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒をもつ保護者の支援に向けた各関係機関における連携体制の整備を推進する必要がある。